**地区安協活動事例紹介****～交通安全活動について～**

〔上田交通安全協会〕

上田交通安全協会では、地域全体が一丸となって交通事故防止に取り組んでいます。

- 夏の交通安全やまびこ運動において、東御市の道の駅「雷電くるみの里」で交通少年団によるレター作戦を実施し、旅行客など道の駅に立ち寄ったドライバーに少年団が作成したメッセージを手渡して交通事故防止を呼び掛けている。
- 夏の市民祭り「上田わっしょい」において、踊り連に女性部が参加し、横断幕、のぼり旗を活用して参加者に交通安全の意識付けを行った。
- 秋の全国交通安全運動において、鳥居峠で群馬県警、隣接市町村と合同で交通指導所を開設し、交通安全啓発チラシと共に、群馬は「長野原キャベツ」、長野は「信州きのこ」をドライバーに配付して啓発活動を実施した。

**交通安全協会団体会員へのご入会のお願い****県内の企業・団体の 長野県の交通安全活動を支えるのはみなさまです
みなさん・・・**

(一財)長野県交通安全協会では、県内の企業や団体等の皆様の中で当協会の目的及び事業活動に賛同し御協力をいただける「団体会員」への入会をお願いしております。交通事故防止活動の更なる推進のため皆様のご協力をお願いいたします。



交通安全活動 優良運転者表彰
交通安全広報 交通安全教育

- 団体会員加入の皆様(敬称略・順不同) ※令和6年5月現在
 - ・大和ハウス工業株式会社長野支店
 - ・株式会社電算
 - ・株式会社酒井商会
 - ・公益財団法人倉石地域振興財団栗田病院
 - ・信州玉姫殿グループ

- 会員特典
 - 1 機関誌(「交通しなの」)、チラシ、パンフレット等の無料配付。
 - 2 機関誌、ホームページへの企業名、バナー広告の掲載(希望による)。
 - 3 交通安全DVDの無料貸し出し。
- 入会手続等の詳細につきましては、(一財)長野県交通安全協会までお問い合わせください。TEL026-292-9750

交通安全ファミリー作文コンクール最優秀作品の紹介

令和5年度交通安全ファミリー作文コンクール(警察庁、全日本交通安全協会、三井住友海上福祉財団、日本交通安全教育普及協会共催)は、各家庭や学校、地域等において交通安全に関する話し合いを進めることにより、国民一人一人の交通安全意識の一層の高揚を図り、交通ルールの遵守と正しい交通安全マナーの実践の確保に資すること等を目的として、昭和54年度から行っており、今回で45回目となりました。応募総数4,089点の中から選ばれた「中学生の部」の最優秀作品(内閣総理大臣賞)をご紹介します。

交通安全家族会議

福島県郡山市立安積第二中学校
1年 安齋 真央

私にとっての交通安全を考えてみると、自転車を運転する時には「ヘルメットを着用する」「左側を走行する」など主に、自転車に乗る側の視点での交通安全を一番に考えた。その理由は、中学生になって自転車通学になったからだと思う。では、他の人はどうだろうかと思った私は、家族と交通安全とは何かについて会議をすることにした。

まず初めに、小学生の妹が考える交通安全は、「信号を守る」「横断歩道では手を挙げて横断する」など、主に歩行者側の視点での意見が多かった。

次に、母が考える交通安全は、「かもしれない運転をする」「急のつく運転をしない」「早めにライトを点灯する」など主に、車の運転者としての視点での意見が多かった。

次に、父が考える交通安全は、「出掛けるときは、早めに出発するなど時間に余裕をもった行動をする」「夜間出歩く時は、夜光反射材を着用する」との意見であった。また、人それぞれの交通安全だけではなく、車の自動ブレーキ機能などの企業努力も交通事故防止に繋がっているなどと父は話していた。

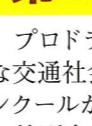
このことから分かる通り、それぞれの年齢や立場によって考える交通安全があることが分かった。また、そのどちらもが守らなければならない交通安全だと思う。

では、なぜ交通事故は起こるのか。福島県内の交通事故件数を調べてみると、令和4年中に二千七百件を超える人身事故が発生していることが分かった。これでも減少傾向にあるようだが、なぜこんなにも交通事故が発生するのだろうか。

それについても家族で会議をした。その中には、「疲れや調子の乱れ、それによる注意力の低下が原因なのではないか」「前は大丈夫だったからという経験で基本が崩れたのではないか」「自己中心的な考え方で行動していたのではないか」「そもそも交通安全に対するモラルがなく、交通ルールを守っていない人がいるのではないか」などの意見があつた。

この時、ふと私が感じたことがある。それは、大人は事故を起さないという加害者の視点、子供は事故にあわないという被害者の視点で交通安全を考えていると感じた。それぞれ交通安全のことを考えているのに、まったく逆の視点から考えていると感じた。また、交通事故は、自動車と歩行者の事故だけではなく、自転車と歩行者の事故も考えられることが分かった。それを考えると、自転車通学をしている私も交通事故の加害者になる可能性があることが分かった。今まで、事故にあわないための交通安全を考えていたが、これからは、加害者側の視点での交通安全も意識しなければならないと感じた。

この会議を通して、私が思う最大の交通安全は、全員が加害者側と被害者側の視点で交通安全を考えることだ。

第46回プロドライバー事故防止コンクール実施結果

プロドライバーが、安全運転や接客マナーの向上を図り、一般ドライバーの模範となって「安全で快適な交通社会」の実現をめざすことを目的に、令和5年7月から12月までの間、プロドライバー事故防止コンクールが実施されました。

特別表彰受賞事業所(3年連続最優秀事業所)及び最優秀賞受賞事業所については、以下のとおりです。
受賞されました事業所の皆様、おめでとうございます。

※マル数字は順位ではありません。

特別表彰受賞事業所**トラック部門**

○株式会社パワード・エル・コム

タクシー部門

○中野ハイヤー株式会社

最優秀賞受賞事業所**タクシー部門**

○南信州広域タクシー有限会社

バス部門

①伊那バス株式会社

④太陽バス株式会社

②柿木観光バス株式会社

⑤南信州広域タクシー有限会社

③西武観光バス株式会社 軽井沢営業所

⑥有限会社ユニバーサル運輸

トラック部門

①上田運送株式会社

④株式会社小川急送

⑦更埴貨物自動車株式会社

⑩諏訪貨物自動車株式会社

⑬南信貨物自動車株式会社

②有限会社永商

⑤北安陸送株式会社

⑧眞田陸送株式会社

⑪株式会社トラックス

③株式会社大町運輸

⑥株式会社小泉運輸信越

⑨三鱗運送株式会社

⑫長野通運株式会社

各地区の交通安全活動ニュース

交通安全協会は、交通事故をなくすため、様々な活動を行っています。
活動の一例を紹介します。



「春の全国交通安全活動」の一環として県庁前交差点において街頭啓発活動を実施した。(長野)



管内の小学校の交通安全教室において、児童に対し横断歩道の歩行要領等を指導した。(中高)



交通安全運動において管内の商業店舗でご当地ヒーロー常笑戦隊酒レンジャーも参加し街頭啓発活動を実施した。(須高)